

# A I 通信

熱海国際交流協会

発行 熱海国際交流協会

〒413-8550 熱海市中央町

1番1号 熱海市役所 第3庁舎

熱海市教育委員会生涯学習課内

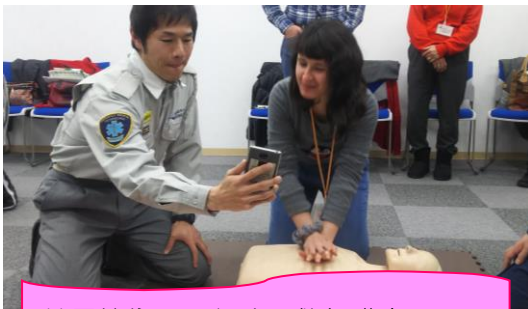
*Atami association for International interchange*



古屋旅館 種田料理長に学ぶ和食



International Year End Party



外国籍住民のための救急講座



国際交流サロン「天ぷらをつくろう」

熱海市の在住外国籍住民数は

**619人**です。(2019年6月) ※ 2019年1月は521人でした。



## 2019年5月14日 市役所第3庁舎にて2019年度総会を開催しました

### 会長あいさつ

ただいまご紹介にあずかりました松本でございます。本日は熱海国際交流協会の総会を開催致しましたところ、公私ともにご多用の中をご出席賜りまして心から厚く御礼を申し上げる次第でございます。また、過ぐる一年の当協会の事業の推進に関しましても役員の皆様、あるいはスタッフの皆様共々会員各位においては、ご尽力を賜りましたことをこの場を借りまして厚く御礼を申し上げる次第でございます。

さて、熱海国際交流協会でございます、世界の情勢は、米中の貿易のまさに貿易戦争と呼んではいような状況からイギリスのブレグジット（EU 離脱）の問題、そして、イラン、あるいは北朝鮮の問題、大変ハイリスクな状況の中で何かきな臭さを感じながらテレビのニュースを見る今日この頃でありますけれども、そういう時代背景であればこそ、市民レベル、あるいは民間レベルの地味ではあるけれども血の通った国際交流、あるいは国際親善というものがまさにより大切さを増すことは論ずるまでもないことだと思います。その意味において、みなさま方の力をまたお借りをして、観光地である熱海でございますから、熱海にお見えになる世界各国のお客様、そして熱海にお住まいの外国人のそれぞれの国の人々、これらの方々とより良い関係を築き上げていくことが熱海国際交流協会のお役目だと思っております。もとより、非力な会長でございます。みなさま方のお力を賜ることが熱海国際交流協会、ひいては国際交流の実を上げるたった一つの道と存じますので、今年一年も、よろしく願いいたしまして、会長の挨拶とさせていただきます。有難うございました。



### 行事予告



10月11日（金）いきいきプラザ 「水餃子をつくろう」（予定）  
中国出身のみなさんと一緒に中国家庭の味、餃子を作りましょう。



11月15日（金）17:30 開演 起雲閣 音楽サロン  
ポルトガル音楽 ファドコンサート 「Fado no Japão 2019 ATAMI」

#### 熱海国際交流協会ご入会のお願い

年会費（4月～翌年3月までの1年間）

個人会員 3,000円 団体会員 6,000円 法人会員 10,000円

会員特典 各種語学教室や年間行事の参加費割引、会報誌の郵送

お寄せいただいた会費は、熱海市の国際交流の他、在住外国人支援、国際支援活動のために活用します。  
みなさまのご支援ご協力をお願い致します。

## 事業報告

2018年11月27日 国際理解講座2

### 古屋旅館 種田料理長に学ぶ和食

古屋旅館の料理長 種田和義さんをお招きして料理教室を開催しました。名旅館の料理長から直に学ぶことができる教室とあって、あっという間に参加者定員 30 名は満員御礼！ 予定していた“日本の季節”を意識した「お雑煮」「紅白なます」をはじめ、時短&簡単にできる「茶碗蒸し」「蒸し鶏」、当日のサプライズで加わった「桑焼きのたれ」「卵焼き」と盛りだくさんの献立でした。手際良く鶏肉に焼き目をつける技や、人参を梅花に切る時の包丁さばきには、思わず「きれい〜！」「なるほど〜！」と感嘆の声が…。素材の一つ一つを丁寧に扱うことや主婦目線に立って親切に教えて下さる姿勢にプロの心意気を感じました。

実習後は、料理長や板前さんと一緒にお料理を囲み、家庭料理のアレンジのお話から県調理技能士会 観光料理の祭典で金賞を受賞した増田勇弥さんのご紹介までお話が盛り上がり、料理を通じて人と人との交流が生まれ、とても有意義な時間でした。古屋旅館の会長様、社長様をはじめ、大変ご多忙の中ご協力頂いた種田料理長、並びに板前のみなさまに心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。



県・調理技能士会観光料理の祭典で金賞、静岡県知事賞を受賞した増田勇弥さん（中央）

きれいな大根ができました！



桑焼き、玉子焼き、お雑煮、紅白なます



#### 古屋旅館 種田和義料理長

伝統的な和食の料理教室が少ない中、このような場所を提供していただけますと日本料理に興味を持ち、伝統を守ることにもつながって参ります。文化交流は人と人をつなげる場所でもあり、新しいことの発見でもあると思います。皆様の交流の和を広げる一つのいいスタートにお役立て出来たら嬉しく思います。

参加させていただいた事に感謝いたします。ありがとうございました。

# International Year End Party

2018年12月5日、熱海市内外の外国籍住民の方々と交流を図る国際ナショナルパーティを国際観光専門学校 熱海校で開きました。

日本人をはじめ、様々な国の方々と交流をはかりながら、アトラクションを楽しむことができ、とても貴重な時間でした。時間が過ぎていくのをとても早く感じました。いつも忙しい日々を送っており、人との出会いやリラックスする時間がなく、パーティがあったおかげで気分転換ができました。ありがとうございました。(チャイワット リヤムユ)



漢詩「水調歌頭 明月几时有」を吟じました。作者は蘇東坡(そとうば・SuDongPo)です。丙辰(ひのえ たつ)の年の中秋の日。友人達で酒を酌み交わし大いに酔って詠んだ漢詩です。「満月(名月)はいつ出るかと盃を天にかざし問うてみた。月には豪華な宮殿があり、踊りを舞う人の影が見える。しかし私にとっては豪華であればなお心は温かくなならないであろう。天の月は人を恨むことはない。(中国では古くから人の別離の時は満月が照らすという言い伝えがある)その月は満ち欠けを繰り返し、人間も嬉しい事や、悲しい事を繰り返す。(兄弟の事を憂う気持ちもあって詠んだといわれます。)」パーティの折、母国を離れて暮らす私達の心情と通じるものがあって踊りも交えて披露しました。周 黄玉



普段はなかなかお目にかかることができない熱海市長や議員さんと直接話すことができ、とても楽しく実りある会でした。母国を離れて働いている人に、各国の家庭料理や母国語で語り合える場をつくることのできたのは良かったです。ブラジルから研修に来ていた方々の即興パフォーマンスや中国の方々の詩の披露など、私達もいろんな国の文化を楽しむことができました。

(運営スタッフ)



## 外国籍住民のための救急講座

2019年2月8日（金）、熱海市消防本部で外国籍住民を対象に救急講座を開きました。タイ、中国、チリ、イギリスの出身者が参加しました。救急隊員から「どういう時に119番にかけたら良いか」、「通報の時にどんな情報を伝えたら良いか」解説を聞いた後、参加者が実際に「ケガ人、病人」に扮し、15か国語の翻訳に対応しているスマートフォンアプリ「救急ボイストラ」を使って救急隊員に症状を伝える体験をしました。参加者の感想です。



119番に入電してから、救急隊員が到着するまでの流れを見学しました。三者間通話は”Yes”、”No”の答えで会話が成り立つように考えられていて良いシステムだと思った。

- 通信司令部と救急隊の多言語アプリの機能に驚いた。
- AEDを学んだのは初めてでした。

救急時に自分の国の言葉で伝えることができると安心します。言語アプリはとても分かりやすい。

もしこの講習についていくことができる日本語能力があったとしても、デモンストレーションを交えても救急の時に使う日本語を理解するのが難しいと思った。

2019年7月31日開催

## 国際交流サロン「天ぷらをつくろう」

中国出身のママ友との会話で、「日本の料理で習ってみたいものは？」—「天ぷらを習いたい。上手に作るのがとても難しい。」という話から、実施した今回の調理実習。当協会の副会長、中島美江さんが講師となり、「季節の野菜の天ぷら」と「簡単そば汁」、中島家の味「卵とじゃがいものコロッケ」を作りました。「天ぷらの衣を作るとき、どうして冷たい水を使うの？」、「みりんは何分煮れば良い？」など、私たちが日常やっている事についていろいろな質問が出てきました。日本語が多少わからなくても、身ぶり手ぶりを交えてみんなで作った料理。とてもおいしくいただきました。（事務局）



コロッケを俵型にまるめてます



みんなで作った天ぷらは格別



ざるうどんと生わさびで贅沢なランチを楽しみました



## JA あいら伊豆

団体会員を  
紹介します！



AIの団体会員、JA あいら伊豆様へインタビューをしてきました。インタビューにご協力いただいたのは、総務部総務課 稲葉課長、営農経済部 販売課 日吉課長、総務の鈴木さんです。

JA あいら伊豆様の事業は農産物の生産・販売だけでなく、JA バンク、共済、不動産まで多岐にわたります。

Q: だいだいの商品がたくさんありますが、だいだいぽんず、マーマレード、サイダー、ドレッシング、お酒、どれが一番人気ですか？

A. だいだいサイダーが人気です。熱海・伊東産のだいだいと伊豆赤沢の海洋深層水を使用したこだわりの炭酸飲料です。微炭酸で飲みやすく、すっきりとした後味です。だいだいのほのかな酸味が飲みやすさの秘訣です。年間製造販売数は、30,000 本です。

Q: 熱海といえば、かんきつ類なのですが一番人気の種類は何ですか？

A. 1番目がだいだい 2番目が青島みかん 3番目がポンカン、地場産のレモンも人気です。だいだいは色々な製品に加工されています。青島みかんは、12月上旬から収穫、貯蔵後、1月から出荷をします。高齢化が進み、青島みかんの出荷量は20年前の5分の1に減っていますが、甘みとコクがあり、幅広い世代に人気の品種です。

Q: JA様の基本姿勢に「地域から必要とされるJA」とありますが、地域活動はどのようなことをされていますか？

A. 収穫体験講座はよく知られていますが、他に農道の整備、店舗周辺の清掃なども行っています。熱海市・伊東市の全小学校に青島みかんを計520キロ贈呈しました。お正月飾り教室も人気です。

Q: 当協会の活動の裏には女性スタッフの力が欠かせないのですが、JA 様の女性部はどのような活動をしていますか？

A. 女性部の会員は約400名います。年4回ほど料理教室を開催したり、農業祭でこんにゃくづくりや味噌作りをしています。

Q: 熱海市は人口の47.2%(1万7,405人)が65歳以上の方です。シニア世代に向けた取り組みはありますか？

A. 農業も、高齢化が進んでいます。若い方や定年退職した方に農業に親しんでもらうため、「農作物栽培講座」を開いています。家庭菜園を考えている方にはこちらがオススメです。本格的に広い畑でやってみたいという方には「三の原野菜栽培トレーニング」を開いています。「三の原」の場合は、月に1度、JA の指導員が植え方、作付け方法など実践的な技術を教えています。



日吉さん、鈴木さん、稲葉さんありがとうございました！



## 雷の思い出

松本義廣

梅雨寒と呼ぶのだそうです。夏とはかけ離れた気候に戸惑ってしまっているのは私一人ではないでしょう・・・うす暗い空に時には遠雷も混じって来ますが、雷と言うと決まって甦る強烈な記憶が私にはありまして、今回はそのお話を致しましょう。

およそ 10 年ほど前の事です、熱海在住の友人二人と共に、アラスカの極地に通じるただ一本の未舗装の道「ダルトンハイウェイ」を走破して北極圏に至り、アラスカからシアトルへは空路で移動して、超巨大なジャイアントセコイアを見物しながらドライブ旅行をしていた時の事です。その驚天動地の自然現象に遭遇した場所は、いささか明確ではなくなっていますが、ヨセミテ国立公園を抜けてマリポーサと言う小さな町へ向かって、店どころか家もろくにないカントリーロードを車で走っていた時の事と記憶しています。

時刻は 7 時か 8 時頃になり薄暗くなり始めたな、そろそろモーターを見つけなければなどと思っていたところ、いきなり消防のホースで水を掛けられたような、息苦しくなってしまうような大雨が降って来まして、当然の事ながら車のワイパーも役立たず、辺りは真っ黒となり運転していた私は戦闘モードに入りました。

最初の一撃は何が起きたか分かりませんでしたが、暗闇が白色の閃光で吹き飛ばされ、しばらくしてから音と言うよりも振動が感じられました。次の一撃が来た時にその正体が判明しましたが、信じられない事に目の前の真っ暗な大空の、右の端から左の端まで太いボリュームたっぷりの光線が走って行くのです。上下ではなくて水平に！

走っている道はカントリーロードですから照明なんぞも有るわけもなく、道路以外人間社会の痕跡の全く無い中、真っ暗と真っ白に大雨で大変な目にあいました。

大陸ですねアメリカは・・・とつくづく感じました。

この旅では他にも愉快的なエピソードが有るのですが次の機会にでもと思います。

### 国際支援

### ペルーへ楽器をおくる運動のご報告



市内外のみなさまよりお寄せ頂いた楽器、ピアノカ 17、リコーダー 42、ハーモニカ 25、トライアングル 1 (計 85) をペルー・リマの学校 “Ciudad de los Ninos” へ 送りました。こ



この運動は、市内在住の西岡ルイサさんご夫婦（ペルー人）の呼びかけで始まりました。当時リコーダー（立笛）が 1 本 5 千円し、楽器はとても高価なものでした。日本に来たとき、ゴミのなかに楽器が捨てられていたのを見て、「もったいない・・・。まだ使えるのに。」と思い、市民に呼びかけて集め、AI がペルーの小中学校へ送ったのがはじまりでした。ご協力いただき有難うございました。

## ホームステイ受入れの面白さ

大黒崎 青木義美

3月21日(木)春分の日、目黒で中国人同士の結婚式があった。私たち夫婦もなぜかその式場に座っていた。それも新婦の親として、更に彼女の親として座っていたのは3組もいた。中国は一人っ子政策(今は廃止されたようだが)で子どもは一人でも親は何人も持つていいようだ???

実は8年前にさかのぼるが2011年(平成23年)8月、AIさんからの紹介で中国人女性留学生を2泊3日で我が家へホームステイさせた、3日間と少ない日程のホームステイは好きではないが行程上3日間が我が家への限界らしく了解した。彼女は当時長崎純心大学へ1年間の短期留学で来日していた。夏休みを使って約1ヶ月の「Discovery Japan」の旅で青春18きっぷを使って熱海に5日間滞在したのだった。普通電車で日本中JR乗り放題というのがこの切符である。3日間ではあったが日本中の旅行でもこの地域はやはり富士山だろうという事で五合目まで連れて行った。居酒屋も体験させた。そのご縁で大学卒業後の3月帰国前に再度我が家を訪問してくれた。それから1年たっただろうか麒麟ホールディングに就職が決まったとの連絡で東京で再会した。高崎転勤でも彼女に会いに行った。まさに自分の娘同様に気にかけた。南京から実の両親も来日し、高崎で日中国交の酒宴までした、そのうち再び東京勤務になった2016年だっただろうか、友人に会ってもらいたいとの事で、東京で一席設けた、それが今回の新郎であった。



(左から3人目)青木優子様 (右)青木義美様



(中央) 新婦の徐さん、新郎の中源さん

40人くらいの家族的な披露宴ではあったが中国人15人、日本人25人というバイリンガルな雰囲気にも初めての体験であった。司会者は中国語と日本語の両方での司会で時代の流れを感じずにはいられなかった。ちなみに彼女の正式な名前は「徐 驍蓓 じょぎょうばい 通称きょうちゃん」新郎は「中源量皓 なかもとりょうこく」日本生まれの、日本育ちの中国語がたどたどしい優しい中国人です。慶応大学卒業で昭和石油勤務というからこれもすごいですよね。

4月1日より彼女だけアメリカ転勤で新婚なのに・・・という思いはあったが中国人のパワーには感心するばかりでした。我々の席は彼女が高校生時代にやはり名古屋でホームステイしたホストの両親と同席でした。そんな訳できょうちゃんには南京、名古屋、熱海の両親3組もいる形となった訳です。新婦に3組もの親が立ち会っての結婚式は珍しいのではないのでしょうか。幸せですよ、3組の親も本人たちも……。